

福 事 研

令和4年(2022年)3月25日発行

福岡県小中特別支援学校事務職員研究会

事務局 嘉麻市立山田中学校

TEL 0948-52-0077

FAX 0948-52-0177

発行人 吉 備 昌 彦

令和3年度総会・支部代表者会

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、Webでの開催となりました。

○会長からのメッセージ

日頃から、福事研活動にご理解、ご協力いただき、誠にありがとうございます。学校の危機管理がかつてないほど求められ、これまで全く経験したことのない、試行錯誤の日々の積み重ねこそが日常となっている現在、その学校の日常を守るため、日々奮闘されている事務職員の皆様に心より敬意を申し上げます。

本研究会におきましては、令和2年2月に20周年記念大会を開催してから後、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、同年9月まですべての会議等について中止とさせていただき、昨年度の評議員会・総会につきましても書面評決という形を取らせていただきました。

その後、感染状況を見ながら、研究大会の開催を模索してきましたが、結果的に参集しての開催を断念せざるを得ず、中止とさせていただいたところです。その他の会議につきましても、現在に至るまで、参集しての活動がほとんどできていない状況です。

本年度につきましても、県下に最近まで緊急事態宣言が発令されるなどの状況から、参集して評議員会・総会を行うのは適切ではないと判断し、総会議案につきましても、昨年度同様、Webを使用した表決とさせていただきたいと思っております。

書面では、多くのことを伝えることができず、情報の共有等の点において不十分になってしまうことにつきまして心よりお詫び申し上げます。

さて、今後の活動ですが、議案にもあります通り、本年度の研究大会も参集しての開催は難しいと考えています。しかし、昨年度とは異なり、単に中止とはせず、オンライン配信を念頭に、何らかの形で研究内容が発信できるよう、研究部を中心に取り組みを進めているところです。研究部会もなかなか参集できない中で、どれほどのことができるか未知数ですが、会員の皆様と共に考えていけるような内容にできるよう努力してまいります。

コロナ禍の中で、研究会活動の重要性・必要性を皆様に伝えることが十分にできず、一部の支部におきましては、会員の減少が進み活動に支障をきたしています。ただ、このような状況下だからこそ、事務職員のつながりがより重要となっているのではないかと考えています。そしてそれは、皆様と共に創っていくものだとも考えています。困難な状況だからこそ、ひとりひとりの想いをつながなければ何も生まれません。

参集が難しい中での議案審議は非常に困難かと思いますが、少しでも皆様と共にある研究会活動にするため、ご意見等ございましたら積極的にお聞かせ願えればと思います。研究会全体及び各支部の活動の活性化のためにもご審議、ご協力よろしくお願ひいたします。

○ 表決の結果

第1号議案～第6号議案

賛成 113 反対 0

第7号議案 規約改正

賛成 112 反対 1

令和3年度(2022年度)役員

| 役職名 | 氏名 | 所属名 | |
|-------|--------|-----------------|--------------|
| 会長 | 吉備 昌彦 | 嘉麻市立山田中学校 | |
| 副会長 | 馬原 伸司 | 川崎町立川崎中学校 | |
| | 樋口 桂子 | 八女市立福島中学校 | |
| | 永野 修 | 小郡市立三国中学校 | |
| | 橋本 喜久代 | 福岡市立姪浜小学校 | |
| | 森 聡 | 北九州市立高等学校 | |
| 事務局長 | 柴田 正治 | 大野城市立平野中学校 | |
| 事務局次長 | 河野 正和 | みやこ町立豊津小学校 | |
| 事務局員 | 網田 雅志 | 北九州市立小倉南特別支援学校 | |
| | 池田 和広 | 北九州市立門司総合特別支援学校 | |
| | 波多野 康乃 | 芦屋町立芦屋中学校 | |
| | 笠原 奈留美 | 直方市立感田小学校 | |
| | 花村 雄大 | 八女市立見崎中学校 | |
| | 山口 紀子 | 八女市立福島小学校 | |
| 監事 | 矢岡 紀久子 | 豊前市立合岩中学校 | |
| | 川上 幸恵 | 大牟田市立大正小学校 | |
| | 橋村 真理子 | 直方市立直方二中学校 | |
| 理事 | 京築地区 | 宇都宮 太一 | 行橋市立簗島小学校 |
| | 北九州地区 | 今山 広子 | 鞍手町立鞍手中学校 |
| | 筑豊地区 | 田中 陽子 | 嘉麻市立牛隈小学校 |
| | 福岡地区 | 近藤 綾 | 太宰府市立太宰府東中学校 |
| | 北筑後地区 | 永田 尊之 | 朝倉市立立石小学校 |
| | 南筑後地区 | 酒井 安紀 | 大川市立田口小学校 |
| | 福岡市 | 吉田 紗佑里 | 福岡市立弥永西小学校 |
| | 北九州市 | 古賀 早紀子 | 北九州市立菅生中学校 |

令和3年度 第24回研究大会

令和4年2月4日に第24回研究大会を開催しました。新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐためオンラインによる開催とし、分科会のみを行いました。

○ 会長あいさつ

みなさまこんにちは。

福岡県小中特別支援学校事務職員研究会会長の吉備と申します。

第24回研究大会の開催にあたり、主催者を代表いたしまして一言ご挨拶申し上げます。

新型コロナウイルス感染症による最初の緊急事態宣言から2年弱が経過しました。

学校の危機管理がかつてないほど求められ、経験したことの無い、試行錯誤の日々の積み重ねの中、日々奮闘されている事務職員のみなさまに心より敬意を表します。

本研究会におきましては、一昨年2月に設立20周年記念大会を開催いたしました。昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、研究大会を中止せざるを得ませんでした。

本年度につきましては、何とか研究の歩みを止めないという一心で、感染状況に左右されないオンラインでの研究大会開催を決定し、準備を進めてきました。

今回の研究大会では、大会テーマを「子どもたちの育ちにつながる事務職員であるために」と定め、4つの分科会を設定しました。

時間の制約上、全体会を省略して、分科会みの設定とさせていただきますが、研究部を中心として、その持てる力を駆使して分科会企画・運営に挑戦しました。

多くの研究部員が分科会の運営はもとより、オンラインでの企画・運営という全く経験のない中、手探りで作り上げてきた分科会です。それ故、何かと至らない点多々あるかとは思いますが、それらの研究協議の中からこれからの

事務職員のあり方を考える上での数多くのヒントが示されるものと思っています。

ところで、私は、最近のコロナ禍の中で、事務職員の“つながり”が希薄になっているのではないかと感じています。当たり前のように行っていたコミュニケーション、交流が、かくも大切なことであったことを、今更ながら改めて痛感しています。

これまでも、コミュニケーションや他者の実践からヒントをつかみ、試行錯誤を繰り返していくという“つながり”の中で、私たち事務職員は進むべき道を探してきたのではないかと思います。未来が見通せない、手探りな状況と言える現在だからこそ、研究活動を通してそうした“つながり”を作るといった面において研究会活動の重要性はより大きくなっているのではないかと考えています。

今回の研究大会におきましては、オンラインという制約のある中ではございますが、事務職員の“つながり”というものを少しでも体感していただければ幸いです。

福事研としては、従来からの学校運営への参画に加え、様々な危機管理が問われる状況下における事務職員の果たすべき役割を探求しつつ、子どもたちが安心・安全な学校生活を送れるよう、専門性を活かしたとりくみを、引き続き探求・推進していく必要があると考えています。

今後とも福事研は会員の皆様に“学び”の場を提供し続け、福岡県の教育に貢献し、学校事務職員制度のますますの発展と子どもたちの豊かな育ちに貢献できるよう努力いたします。引き続きみなさまのご支援ご協力よろしく願いいたします。

最後になりましたが、本研究会の活動に対してご支援、ご協力をいただいています福岡県教育委員会、福岡市・北九州市両政令市をはじめとする県内各市町村教育委員会、教育関係機関並びに諸団体の皆さまに厚く感謝申し上げます。

研究大会の中から、私たちが目標とする「子どもたちが夢を抱き将来に向かってはばたける学校づくり」につながるようなヒントをみなさまに見つけていただき、実践へとつないでいただけるとをご期待申し上げ、私からの挨拶といたします。ありがとうございました。

○ 研究テーマの設定について

皆さまこんにちは。研究部長の樋口と申します。私からは、本大会テーマの設定について説明をいたします。

最初に、子ども達を取り巻く社会情勢がどのように変化しているのかをお伝えします。

まずは、人工知能（AI）、ビッグデータ、IoT、ロボティクス等の先端技術が高度化され、社会の在り方が劇的に変わる Society5.0 時代が 到来しつつあるということです。これにより社会の在り方そのものが、今までとは「非連続」と言えるほど 劇的に変わる状況が生まれつつあります。

次に、この予測困難な時代において、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う影響は多方面に波及し広範で長期にわたっています。よって、「ポストコロナ」を見据えた新たな世界、いわゆる「ニューノーマル」に移行していくことが求められています。

最後に、少子高齢化や人口減少等が、急激に進展していることをあげたいと思います。18歳の人口は、2020年時点で116万人程度（ピークは1990年頃の200万人超）。2030年には約100万人、さらに2040年には、約80万人まで減少するという推計になっており、一層の少子化が進行することが想定されています。このような中、学校数及び児童生徒数も減

少傾向にあり、少子化の進行により、教育的機能の維持が困難となっている地域・学校も存在しはじめています。

このように急激に変化する時代の中で、日本の学校教育には、一人一人の児童生徒が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められています。また、持続的で魅力ある学校教育の実現も必要とされています。

こうした社会情勢を踏まえて、中央教育審議会において、新しい時代の初等中等教育の在り方について、検討が進められてきました。

そして令和3年1月に「令和の日本型学校教育」として答申がまとめられています。答申では、これまでの日本型学校教育が果たしてきた、

- ・学習機会と学力の保障
- ・社会の形成者としての全人的な発達・成長の保障
- ・安全・安心な居場所、セーフティーネットとしての身体的・精神的な健康の保障

という三つの保障を学校教育の本質的な役割として重視し、これを継承していくとしながらも、これからの学校教育においては、全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実した全ての子どもたちの可能性を引き出す学校…「令和の日本型学校教育」の構築を目指すことが求められています。

「令和の日本型学校教育」の構築に向けて、以下のような取組が進められています。ここでは簡単に項目だけをあげさせていただいています。

- ① 新学習指導要領の着実な実施
 - ② GIGA スクール構想、ICT の活用
 - ③ 少人数による指導体制の整備
 - ④ 9年間を見通した義務教育の在り方
 - ⑤ 地域社会や関係機関等との連携・協働
 - ⑥ インクルーシブ教育システムの構築
- 詳しい内容等については、ぜひ答申等でご確認ください。

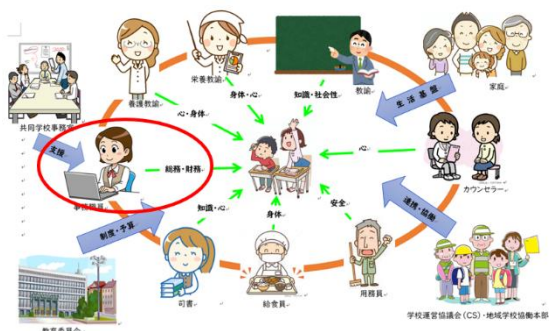
学校事務職員の位置



では、私たち事務職員は、どのような位置にいるのかを確認したいと思います。私たちは先ほどからご説明しましたように予測困難な時代、ポストコロナを見据えた「ニューノーマル」な世界、少子高齢化、人口減少という社会の中におり、そのような社会情勢の中、新しい時代の初等中等教育の在り方として「個別最適な学び」や「協働的な学び」を一体的な充実を図る「令和の日本型学校教育」の構築を目指す学校教育の中おり、それを実現していく学校現場で、事務職員として勤務をしています。学校では、それぞれの職の役割で主体的に、また他の教職員や関係者とともに協働しながら「子どもたちの育ち」を支援しています。事務職員も、もちろんこの輪の中に入っており、同じ

ように「子どもたちの育ち」に向かって、職務を行っています。

学校事務職員の位置



平成 29 年 4 月には、より主体的・積極的に校務運営に参画できるように「事務をつかさどる」と学校教育法が改正されました。

さらに、令和 2 年 7 月には「事務職員の標準的な職務の明確化に係る学校管理規則参考例等の送付について」が通知され、その中では、別表第 1 の事務職員の基盤となる「総務・財務・管財・事務全般」という標準表とともに他の教職員との適切な業務の連携・分担のもと、その専門性を生かして、事務職員が積極的に参画する職務の内容とその例として別表第二が示されています。

これらを基に、本研究部会にて、事務職員の職務の方向性は、子どもに向かっていることを確認し大会テーマを「子どもたちの育ちにつながる事務職員であるために」と致しました。各分科会ともに、それぞれ違った視点から、子どもたちの育ちと私たち事務職員の職務について、考える内容となっています。

短い時間ではございますが、「子どもたちの育ちに」どのように関わることができるだろうか？と一緒に考えられたらと思っています。そして、明日からの皆さまの学校の「子どもたちの豊かな育ち」につながり、寄与できたらと期待しています。

○ 分科会報告

～第 1 分科会～

1 分科会日時と参加者

- ・分科会日時：2022 年 2 月 4 日（金）
- ・参加者：8 名（うち、福事研役員参加者 2 名 馬原、波多野）

2 分科会当日の運営者（研究特別委員）所在について

- ・運営者：5 名（石川・前田・鈴木・山本・原田）は分科会当日同じ場所にいませんでした。石川が「みんなの会議室」に駐在、前田、鈴木、山本、原田は勤務校からリモートで運営をしました。

3 分科会の流れ

- ・本分科会は、参加希望者の仕事に関する悩みを申し込みと同時に入力してもらい、運営側が悩みへの回答を考えて当日回答しました。

- ・分科会は以下の手順で進行しました。

オリエンテーション

- ⇒ 研究部員紹介
- ⇒ 分科会テーマについて説明
- ⇒ アイスブレイク
- ⇒ 寄せられた悩みへの回答
- ⇒ 休憩 ⇒ 意見交流
- ⇒ 終わりのあいさつ。

4 意見交流について

参加者同士が自由に発言するように持ってきたかったのですが、最初のうちは参加者から発言がないことが多かったため、研究部員が発言して参加者が発言しやすい雰囲気を作ったり、司会者が参加者を指名して発言してもらったりしました。幸い、参加者は意欲的に発言してくれて、分科会の進行に困ることはありませんでした。

5 オンラインで対話型研修を実施してみよう

- ・対話型をするなら、運営側が発言者を指名していく。

オンラインというのは発言するタイミング

が分かりづらく、発言がでないことが多かったです。参加者同士に任せずに、運営側が主導権を握って発言を促すようにしていくといいと思います。

・やることを絞る。

分科会というと色々なことをしたくなりますが、取捨選択して絞ったほうがいいと思います。本分科会でも参加者を班に分けて班ごとでのアイスブレイクや意見交流も計画していましたが、運営側が1か所に集まれなくなったので班分けをやめました。

運営側のパソコン操作も減らせますし、意見交流で参加者から発言してもらうことは簡単ではなかったことを考えると、やることを絞ったのは間違いではなかったと思っています。

～第2分科会～

第2分科会では、5名の研究部員のうち1名しか分科会運営の経験者がいない中、福事研においても初のオンライン開催ということで、コロナの感染状況により先行きも見えないまま、なんとか当日までに仕上げ、学校の備品に関するテーマを軸にした分科会を形にすることができました。分科会で取り上げるテーマについては、限られた時間の中で多数決を取りながら決めたもので、準備段階において何度も、「これで正しいのか？」という不安がありましたが、参加者視点で、受けた後にたくさんの収穫があるような分科会を目指すことで、目的を持って取り組めたように思います。

特に苦労したことは、「学校での備品活用」と「民間企業での備品活用」についての違いから、備品活用の手立てを、インタビューやアンケートを取る方法を用いて導き出そうとしたのですが、なかなか民間企業や私立学校等にあてが無かったり、問合せをしても回答が得られなかったりしたことです。外部との交渉の難しさや、断られることを

想定した上で代替案を考え、準備しておくことがいかに重要かを痛感しました。また、分科会の中身についてアイデアを練っていくだけではなく、分科会当日が近づいてくると、当日の流れについて、生放送になるのか収録になるのかどうかや、撮影や編集・修正報告等たくさんやること・決めることが増えていくことも、当たり前やることだと分かっていたつもりでしたが、いざ直面すると焦燥感が拭えませんでした。

しかし、今回の分科会運営に携わったことで、様々な事態を想定しながら考える力や、迅速さや決断力、客観的に物事を考え、わかりやすく伝えるための表現力などが鍛えられ、事務職員として各自ステップアップできたように思います。何より、参加者のアンケートを目にした時は、最も達成感を感じることができました。困難に面した際に、自分自身で考え、行動していく力は今後も身につけていきたいと思っています。

～第3分科会～

文科省が定める「事務職員の標準的な職務の明確化に係る学校管理規則」における別表第二（事務職員の日常的にしている事務的なホワイトカラー業務ではない部分）についての、問題提起、実践発表、グループ討議を行いました。また提言者として現職の校長先生を招聘し、意見等を伺いました。

前半部分について、問題提起および実践発表を行いました。具体的に問題提起に関しては、現場の事務職員が日常業務とは別に、どのように別表第二に関する新しい業務へ関わっていくための入り口を見出すのか、また実践発表に関しては、実際に実践している事務職員の紹介等および、コミュニティスクールへ関わった経験がある事務職員のレポート、感想等の発表を行いました。

後半部分については、1グループを参加者5名程度で編制し、日頃どのような別表第二に関する

業務へ携わっているか、また携わる際の問題点等を討議し、グループでまとめ、最後に全体の参加者と意見等の共有を行いました。

～第4分科会～

第4分科会では、「教えて先生！記憶に残る事務職員 ～先生方へのインタビューから考える事務職員ができること～」と題し、前半の研究発表と後半の講演の2部構成で実施しました。

前半では、県内の先生方に「記憶に残る事務職員」についてのインタビューを行った結果から、今後の事務職員のあるべき姿について考察する研究発表を行いました。

具体的には、まずいただいた意見を「テキストマイニング」という手法を用いて、その共通項や関連性を直感的に理解することを試みました。さらに回答をジャンル分けして、その傾向も併せて分析していきました。

その結果、温かい対応を基礎とし、子どものかかわりを持ちながら教育課程を理解し、校内の総務・財務に活かすことができる事務職員を、一つの理想の形として提案しました。

今回の研究発表は事前収録で行ったことにより字幕をつけることができたため、目新しい内容についても結果として伝わりやすい発表になったものと思います。

後半は、CPDI 代表で内閣府地域活性化伝道師の三角幸三氏をお迎えし、リアルタイムのリモート形式でご講演いただきました。

ご自身が校長をされていた時の経験なども交え、これからの事務職員の実践に必要な具体的手法を、コミュニケーション、心理、言語、組織等の様々なアプローチからご示唆いただき、参加者もそれぞれの学校で大いに役にたったものと思います。

また講演とはいっても、クイズやリモートだからこそできるアンケート機能などを駆使され、250名近くの参加者全員ご楽しみながら学ぶこ

とことができました。

第4分科会は、多くの関係各位のご協力なくしては実現しませんでした。心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

令和3年(2021年)度研究部員

| 区分 | 氏名 | 所属名 |
|------|-------|---------------|
| 研究部長 | 樋口桂子 | 八女市立福嶋中学校 |
| 研究部員 | 山本将悟 | 行橋市立仲津中学校 |
| | 神崎千春 | 豊前市立八屋小学校 |
| | 井上香純 | 遠賀町立遠賀南中学校 |
| | 中壽賀有香 | 飯塚市立穎田小学校 |
| | 原田健吾 | 田川市立伊田小学校 |
| | 石川健一郎 | 須恵町立須恵第一小学校 |
| | 佐々木 秀 | 太宰府市立太宰府南小学校 |
| | 脇山未来 | 春日市立春日西中学校 |
| | 播磨秀俊 | 糸島市立前原南小学校 |
| | 宗岡彩貴 | 宗像市立日の里西小学校 |
| | 権藤幸子 | 小郡市立立石中学校 |
| | 梶山陽平 | 久留米市立金島小学校 |
| | 鈴田めぐみ | 久留米市立諏訪中学校 |
| | 千葉崎 路 | みやま市立清水小学校 |
| | 田井美由紀 | 筑後市立羽犬塚小学校 |
| | 山本彩花 | 筑後市立水田小学校 |
| | 前田恵宏 | 大牟田市立白光中学校 |
| | 釜田聡一郎 | 福岡市立鳥飼小学校 |
| | 日力雅史 | 北九州市立小池特別支援学校 |

令和3年度 北九州市研究大会参加報告

令和4年1月28日(金) 第15回北九州市立学校事務研究会研究大会がオンラインで開催されました。当初は参集とオンラインを併用するハイブリッド型での研修会開催が予定されていましたが、年始からの急速な新型コロナウイルスの感染拡大を受け、オンラインのみでの開催に変更となりました。大会テーマは「学びをふかめる学校事務の実践」と設定され、開会行事に引き続き、行政説明、ショートプレゼン、トークセッション、講演と盛りだくさんの内容で行われました。

行政説明では、北九州市教育委員会 教職員部 教職員課 教職員係長 加藤 雄司氏が「学校事務職員のありかた」と題し、学校職員の位置づけ、学校事務職員が働きやすい環境の整備、学校における働き方改革という柱に沿って、標準職務表の策定、事務の共同実施、各職位に求められる役割の明確化、業務改善プログラム、業務改善コンサルティングなど北九州市の教育施策について説明がありました。お話の中で、“近年の学校事務職員に係る法令の改正について、ひとつの職に対し集中的に見直し、新たな考え方が示されているのは珍しい。”という見方を示され、学校事務職員という職への期待を改めて感じました。

ショートプレゼンは、1本目として北九州市立高等学校 諫山 恭知氏による「高校の学校事務とは」と題し、近年、北九州市においては市立高校も事務職員の異動対象先となり、そこでの義務制学校とは異なる仕事内容とやりがいについて紹介されました。2本目として、教育委員会 教職員部 教職員課 給与厚生係 主任 比留間 暁氏による「教育行政と学校事務」という内容で、学校から教育委員会に異動して改めて感じた教育委員会と学校の違いや教育委員会から見る学校現場などについて自らの体験を踏まえたお話がありました。

トークセッションは北九州市立学校事務研究会 会長 森 聡氏と同副会長 池田 和広氏が「北九州市の現状についての考察 ～いま思うこと・感じる

こと～」と題して、北九州市事務職員が直面する様々な課題に対し、研究部によるアンケート「学校事務補助員未配置校の事務職員に関する実情調査」の結果から見えてくる内容も踏まえ、それらに対する感想や、今後事務職員が進むべき方向性についての考察が展開されました。

講演は、教育研究家 妹尾昌俊氏による「クリエイティブな学校事務と学校改善～学校事務職員ができることを考える、やってみる」と題した内容で、“学校事務職員の視点を日々の教育活動や学校の組織運営に活かしてほしい”、“そもそも何のためという考え方、問いを大事にしてほしい” “現状維持バイアス⇔今までどおり、を疑ってみる目線 “など随所に印象に残るお話を聞くことができました。また、”学校事務職員の学校事務職員による学校事務職員のためだけの共同事務室、共同実施でいいの？ “、”学校事務職員の役割、業務もビルド&ビルドではしんどくないですか？ “という問題提起もあり、視野を広げ視点を変えることを今後意識していきたいと考えさせられた内容でした。

会場での交流を通じた研究の深まりが図れなかったのは残念ですが、コロナ禍における研修の形がしっかりと打ち出されており、開催内容のみならず、開催方法等についても大変参考になる研修会でした。

編集後記

新型コロナウイルス感染症対策のための一斉臨時休校の措置がとられて2年がたちました。その間、様々な感染対策やワクチン・治療薬の開発が行われ、安心して学校生活を送れるようになる日が少しずつ近づいていると思います。

令和4年度の研究大会は少しでも多くの会員の方と会場でお会いできたらと思います。

